

ワシントン大学訪問記 学生海外早期体験実習に参加して

著者	竹田 有希, 犬丸 杏里, 井関 敦子
雑誌名	三重看護学誌
巻	14
号	1
ページ	159-163
発行年	2012-03-15
URL	http://hdl.handle.net/10076/11951

ワシントン大学訪問記

— 学生海外早期体験実習に参加して —

竹田 有希¹, 犬丸 杏里², 井関 敦子²

はじめに

平成 23 年 8 月末, 医学・看護学教育センター主催の医学部学生早期体験実習に参加した。この実習では, ワシントン大学メディカルセンター, シアトル子ども病院, フレッド・ハッチンソン癌研究センターおよびシアトル癌ケアアライアンス, ハーバービューメディカルセンターを見学した。これらの施設の状況と, そこで得た学びを報告する。

I. ワシントン州とシアトル

1) 地理・気候・民族

ワシントン州はカナダとの国境に位置し州都はオリンピアである。今回訪れたシアトルは, アメリカ西海岸有数の都市で北緯 47 度に位置し, 成田ーシアトル間は往路 8 時間, 復路 10 時間で, 日本との時差は 8 時間である。シアトルは多民族の比率が合衆国内でもっとも高い大都市の一つで, アジア系やアフリカ系住民も多い。

シアトルの夏場の平均最高気温は 24 度¹⁾, 平地での降雪は少なく比較的温暖であるが, 秋から春は曇天が多いとのことである。現地では日差しは強いが日陰に入ると肌寒いほどで, 湿度も低く爽快な気候である。私達が訪れた 8 月末, 人々は夏の日差しを存分に浴びようと, サングラスで目を保護しながら進んで日なたを歩くように見える。

2) 産業, スポーツ

ワシントン州は旅客機製造企業であるボーイング社の工場を擁し, 他に IT 関連産業が盛んである。シアトルは, 日本人野球選手イチローが所属する「シアトルマリナーズ」の本拠地でもある。大通り沿いの野球



図 1 アメリカ合衆国⁴⁾

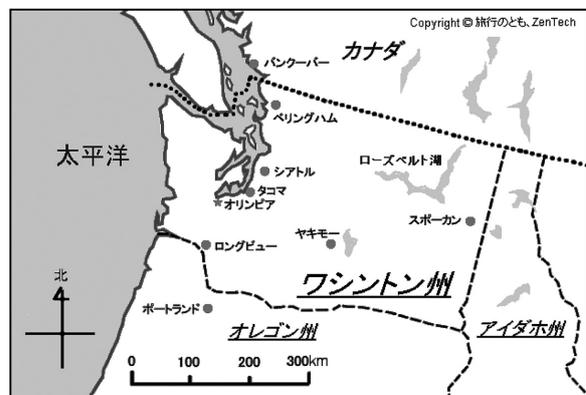


図 2 ワシントン州と周辺都市⁵⁾

場 Safeco Field の壁にはスター選手の特大写真が貼られ, カタカナで「イチロー」と記された彼の写真もある。また, シアトルは, コーヒーショップのスターバックス発祥地として有名で, 市街地にある 1 号店は多くの人々で賑わうらしい。

1 三重大学医学部看護学科 3 年生

2 三重大学医学部看護学科

II. ワシントン大学：

University of Washington (UW)

シアトルに本部を置く州立 UW は 1861 年に開校し、多くのノーベル医学生理学賞を輩出した著名校である²⁾。医学分野は特に高く評価され、2008 年の調査ではプライマリ・ケアと看護分野が全米第 1 位の評価を得ており、特に看護分野は 1984 年の調査開始以来、25 年連続で 1 位である³⁾。私達一行が大学を訪れた日は、オープンキャンパスのような日であるらしく、大学構内をボランティア学生が案内し、高校生とその親が説明を聞きながら構内を巡る。大学の敷地内にはジョージ・ワシントン像が聳え立ち、スザロ・アレン図書館は荘厳なたたずまいをみせている。



スザロ・アレン図書館

III. ワシントン大学メディカルセンター：

University of Washington Medical Center (UWMC)

迷路のような UWMC で、所定の場所に集まり、見学者用 ID を作成する部屋に行く。Wall さんらしき男性が「私は、「壁さん」です。横浜と佐世保で海軍にいました。私の一番目の奥さんは、○橋○○といます。」と日本語で話しかけてくる。病院のカフェのレジ係は「有り難うございました」と愛想が良い。この地では、教育システムのなかで外国語として日本語を学んだ人もいるとのことで、そのせいか親日的な印象を受ける。

1) 産科病棟

フロアは妊産婦病棟と産褥病棟に別れ、ナースマネージャーと日本語が堪能な女性医師に対応していただき、妊産婦病棟を見学した。ナースマネージャーに「今日は忙しくて、十分説明できなくて申し訳ない。どこを見たい？」と尋ねられ、私達は「とりあえず、分娩室！」と、とっさに返事をする。この施設はハイリスク妊産

婦を扱い、年間 2,200-2,500 の分娩件数で、帝王切開率は 38.5% である。硬膜外麻酔分娩は 75% に施され、15% はそれを望まないという。日本の硬膜外麻酔分娩の割合はかなり低く、この 2 つの国の違いは、出産や痛みに対する文化差や医療システム上の特徴によると考えられる。この施設は BFH (Baby friendly Hospital: 「赤ちゃんにやさしい病院」母乳推進施設としてユニセフ/WHO によって認定された施設) でもあり、出産後、問題がなければ母子同室で過ごす理想的なケアがなされている。母乳育児は母子の心身の健康に関与し、母乳確立には母子同室が重要であり、ここではハイリスクであっても可能な限り母子同室を推奨している。新生児期には胎外生活への適応現象として黄疸や体重減少などの生理的変化がおこるが、この変化が正常から逸脱した場合には、NICU 搬送にまでは至らなくても光線療法や糖代謝異常児のケアを行う PCN (progressive care nursing) がある。

入院患者の情報はスタッフ全員が効率的に共有できるように、スタッフルームの高く見やすい場所に、テレビ大画面で提示されている。この画面で患者の状態、検査の内容と進行状況、担当者、検査予定などがわかり、出産後は患者の氏名の色が変わる。プライバシーの問題が多少はあるが、効率的で事故防止にもつながる良い方法である。この大画面とは別に多くのモニターがあり、正常妊婦、ハイリスク妊婦(妊娠高血圧症候群、早産)などに分けられ、FHR (胎児心拍数) と子宮収縮が継続的にモニタリングされている。分娩室は単独では存在せず、9 部屋もの LDR (labor delivery recovery room: 陣痛開始から分娩・産褥初期を過ごす部屋、家庭的な雰囲気を保ち医療機器は必要時準備) からは、分娩件数の多さが推測できる。

アメリカの助産師養成には、Direct Entry (看護師資格を有せずとも助産師資格試験の受験資格を取得できる教育システム) という制度があるが、ワシントン



インファントウォーマー

州では Direct Entry による助産師は施設に勤務することはできないが、家庭分娩を扱うことは可能で、州の家庭分娩の割合は約 5% とのことである。また、UWMC は家庭分娩で問題が生じた場合の救急搬送の受け入れ施設でもある。

アメリカの Nurse Midwife (日本の助産師と同様に看護師免許を有する助産師) は、会陰裂傷 I・II 度の縫合や処方箋の指示ができる。日本の助産師にとって会陰保護は重きをおく技術の一つであり、児の回旋や児頭の娩出にあわせ産婦が怒責をコントロールできるよう、サポートすることが求められる。しかしアメリカの助産師には日本ほどには会陰裂傷の防止や会陰保護が重要視されないように見受けられる。私達は「日本の助産師に求められる会陰保護技術」について説明するが、なかなか理解してもらえない。通訳のドライジャ先生に助けをもらい、やっと「アメリカでは会陰保護はどのように考えられ実施されているのか。」と尋ねると「以前、人に教えてもらって会陰保護をしている人はいた。それを行う人が皆無ではないが、非常に少ない。」と、ナースマネージャーは答える。会陰保護に対する考え方は、麻酔分娩と同様に諸外国によって多様である。

その後、ナースマネージャーは帝王切開に呼ばれ、説明は 1 時間程度で終わった。平均的日本人である私達は、多忙なナースマネージャーに遠慮して他の要望を伝え損ねたため、新生児関連フロアを見学できなかった。「要望ははじめから全て言わなければだめね。遠慮しては損をするわね。」と、名残惜しくフロアを後にした。

2) 手術室

手術室では、食道切除術および心臓弁置換術を見学した。手術場は木の扉で壁には資料が貼ってあり、処置室といった雰囲気であった。廊下も手術室も静かで、間接介助 Ns は術野の消毒後、パソコンへの入力をしてのんびりと座っていた。日本では食道の手術を消化器外科が担当するが、UWMC では胸部外科が担当している。術前には SCOAP Surgical check list を執刀医が読み上げ、Dr・Ns がそれぞれ確認の返答をする。その中には「手を洗ったか」という基本的なものまであった。術衣などは清潔のためというより、汚染から己を防護するという意味合いが強い。緑や紫の手袋にとっても違和感を覚えた。褥瘡予防のためのジェルピローなど使用しているものの、タオルやパッドを用いて丁寧に予防する当学病院ほど厳密に行っていない。食道切除の患者は術前化学放射線療法にて腫瘍縮小していたのだが、日本のようにリンパ節郭清は実施しなかつ

たがこれはアメリカでは標準的手術らしい。これは、リンパ節郭清は生存率に関係しない、という考えがもとになっている。食道切除術と心臓弁置換術 2 例とも約 4 時間と短時間で手術を終えていた。

IV. フレッド・ハッチンソン癌研究センター：

Fred Hutchinson Cancer Research Center (FHRC) / シアトル癌ケアアライアンス： Seattle Cancer Care Alliance (SCCA)

FHRC は癌で亡くなった野球選手 Fred Hutchinson の兄、Dr. William Hutchinson や民間団体他の野球選手たちの寄付のもと設立された癌研究所である。白血病などの癌・HIV などの感染症といった様々な疾患の研究も行っており、ここから 3 人のノーベル賞受賞者が出ている。1990 年、E. Donnall Thomas 氏は骨髄移植治療を開発し、不治の病であった白血病を治癒可能な癌へ進歩させた。2001 年、Lee Hartwell 氏は細胞周期調節機構の発見し、新しい癌治療の方法を提示した。2004 年、Linda Buck 氏は嗅受容体と嗅覚機構を発見し、嗅覚作用の分子遺伝学的解析に貢献した。

SCCA は FHRC に隣接し、シアトルで唯一の癌センターである。ここでは、骨髄移植、臍帯血移植、放射線・化学療法などを行っている。FHRC、UWMC、こども病院より医師が来て治療にあたっている。アメリカでは医療システム上、入院治療は高額であり外来治療が主流である。SCCA も外来治療専門であり、日本ではクリーンルームに入るような免疫力の低下している患者でも、近辺のホテルや自宅から通院している。外来とはいうものの待合室が人で溢れて騒々しい日本とは異なり、ゆったりとした雰囲気であった。全階の待合室は大きな窓に面しており開放感があり明るかった。

V. ハーバービューメディカルセンター：

Harborview Medical Center

ハーバービューはシアトル市街よりも山のほうの景色がよい場所に位置する。この病院は外傷専門で、ドクターヘリもあり、2,300 km 離れたアラスカにも飛ぶ。その距離は北海道から沖縄へ飛ぶと考えれば、その広域さに驚きと不安を感じる。ドクターヘリは 160 回/月ほど出動し、ヘリポートには 3 基分の着地点が用意されていた。

ER 病棟に隣接する入院病棟は、9 つの ICU がある。アメリカでは前述のように入院は高額で好まれない。歩ける患者は退院するため全入院患者が重症である。

患者：看護師＝2：1の割合で配置されている。今回、脳神経外科病棟を見学した。病室は個室か2人部屋で、2人部屋は日本の4人部屋程の広さがある。汚染物を廃棄する「ゴミ箱」ではなく、部屋の中に汚染物廃棄用の「部屋」があったことには驚いた。ベッド周辺には医療機器類や消耗品が常置されており、スタッフの動線が短く済むようになっていた。

VI. シアトル子ども病院：

Seattle Children's Hospital

1) 子ども病院の概要

シアトル子ども病院は、年間180,000件の外来予約がある。1日あたり500人が受診し子どもの3分の2は複数の病気をもつ。フロアは、こどもに親しみやすいように、Giraffe, whale, Rocket, Balloon, Airplane, train という6つのZoneで区別されている。病院のスタッフは約4,000人で、30%以上は25年以上勤務している。全米の新卒小児科医の3分の1は、この病院に応募することと、子ども病院は彼らにとって憧れの医療現場であることがわかる。ここでは約1,100人のボランティアが参加し、子どものケアや生活に関与する。子どもと遊ぶボランティアには6ヶ月間の訓練期間がある。

アメリカのメディケイドは貧しい人々を対象とした医療保険であるが、この施設では保険に関係なくサービスを提供する。施設の運営に必要な資金は各界の著名人をはじめとして、多くの人々から寄付が寄せられ、玄関には寄付者の氏名や団体名が列記されたプレートが掲示されている。かのMicro Soft 創始者のビルゲイツもそのひとりである。



子ども病院の表示

2) 子ども病院の方針

子ども病院の玄関に現れ、私達を案内して下さったのはJ.P.医師である。彼女は初めて会った人を包み込む慈母のような雰囲気を持ち、病気のこともや、その親も大切にしたいが話の内容や口調からも伝わってくる。病院のホールで遠慮がちに散らばる私達に「もっと私の近くにきなさい。わからないことがあったら必ず尋ねると約束しなさい。」と私達との心理的距離を狭め、私達が理解できるようにゆっくりと説明してくださる。

病院のいたる所に、子どもの心を癒すような工夫がなされている。床に描かれた魚や蟹の絵、天井の棧を走る機関車、キリンの人形、エレベータを待つ間に目に入る動物の絵、全てが子どもの不安を和らげると思われる。2階の空間に面した手すりの下の壁も透明な素材で作られているため、小さな子どもの視線でも1階が見下ろせる。子どもの視界には、たくさんの楽しい絵やオブジェが目に入る。もし、子どもが恐怖心を抱く絵柄があれば、早急に描き直すとのことである。J.P.医師は「子どもは不安で恐がり。だから、明るい色の幸せな環境ならば、楽しい思いができる。」「痛い検査がある時は、痛い思いが少なくて済むように工夫し、人形を使って説明する。」「医師より、看護師より、親は子どものことをよくわかっている。だから親も含めた医療チームを編成している。」と、もの静かに話す。これは、小児医療や小児看護の基本事項であるが、この施設のゆるぎない方針と確固たる思想が伝わってくる。



子ども病院の廊下

3) 入院病棟

病棟には9人のChild life specialistが配置されている。病棟の区分は、年齢ではなく疾患で分類するため、1つの病棟には新生児を含むあらゆる年齢層の児童が入院している。スタッフは毎日病棟をラウンドし、全ての入院患者や親と話す。アメリカは多民族国家であ

るうえ、世界中から患児がくるため通訳が果たす役割は大きく、45ヶ国語対応可能で時には筆談も交えてコミュニケーションをはかる。言語上の問題によって、患児やその家族が不安にならないよう、ネイティブの言語による資料を用いて説明している。治療には、音楽療法、プール療法、絵画療法などを行い、長期入院の子供のための院内学級もある。また、Play roomは医療が介入せず子どもの安全が守られる場所である。

長期入院の親のためには、衣類のクリーニングのほか、マッサージのサービスがある。さらに、面会にきたきょうだいのために送迎バスを走らせることもある。アラスカから治療のために入院した子どもに対して、アラスカの自宅に両親、きょうだい、いとこを集めてテレビ中継し、大きなテレビスクリーンを通じて誕生日を祝福する試みもあったとのことである。この病院では、疾患に治療のみならず、子どもときょうだい、親も含めた精神面へのケアも重視している。

4) 心に残る場面

① 祈りの部屋

病院の一角には、ステンドグラスの窓で囲まれた祈りの部屋が設けられている。ここには入院中の子どもや家族、亡くなった子どもの家族も訪れる。病気の子の親は、自責し、様々な苦しみを負うと思われる。



子ども病院の「祈りの部屋」

「Care for the Caregiver」のパンフレットが目につくが、そこには、世話をする家族の苦悩を受容し共感する言葉が綴られている。ここはケアをする家族が祈り、自分を取り戻すための場所でもある。

② 子ども病院でなくなった子ども

病院の玄関近くには、1989年以降ここで亡くなった子ども達の名前を記したプレートが壁に飾られている。子どもを亡くした後、悲しみが少し和らいだ時、親がわが子の名前をそこに見つくと、彼らの心はどれほど癒されるだろう。その記銘は、わが子は確かにこの世に生まれ存在していたという証しである。子ども病院は亡くなった子どもとその親のことも忘れない。

おわりに

若い学生時代に、海外でこのような研修の機会を得ることは、物事に対する視野を広げ価値観を変え、ひいては医療を目指す若い学生の人生も変えるかもしれません。今回この研修に参加した学生と教員の3名にとって、とても有意義な体験でした。このような機会をいただいたことに感謝いたします。

引用

- 1) <http://wikitravel.org/ja/%E3%82%B7%E3%82%A2%E3%83%88%E3%83%AB>
- 2) <http://www.junglcity.com/area/uw.htm>
- 3) [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AF%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%B3%E5%A4%A7%E5%AD%A6_\(%E3%83%AF%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%B3%E5%B7%9E\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AF%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%B3%E5%A4%A7%E5%AD%A6_(%E3%83%AF%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%B3%E5%B7%9E))
- 4) http://www.5a.biglobe.ne.jp/~rd_kyk/usa/
- 5) http://www2m.biglobe.ne.jp/%257EZenTech/world/map/usa/washington_state_map.htm